

‘ 応用計算 ’ について



そろばんの3級～1級では、4級まででない科目「応用計算」が新たに加わります。

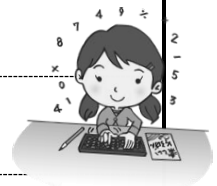
検定試験では、掛け算、割り算、見取算の必須3科目と、暗算、応用計算、伝票計算の中から点数の高い2科目の計5科目で合否が決定されます。

応用計算は、限られた時間内に問題文を読み、何を問われているのかを理解した上で、自分で計算式を考える必要があります。

*今回は1級の紹介です。全部で15問(制限時間10分間)ですが、その一部を以下に記載します。

1 級 応用計算 サンプル問題 (抜粋)

①	次の計算を下さい。(計算の最終で¥1,000未満切り上げ) $¥14,000 \div (0.07 \times 11/12)$
②	465と744の最大公約数を求めなさい。
③	売り上げ額学の¥29,870は、目標額の50.3%であった。 目標額はいくらでしたか。(¥1,000未満四捨五入)
④	¥34,160で仕入れた商品に¥14,940増しの定価をつけたが、定価から31%引きして売った。売価はいくらですか？
⑤	ある商品の消費税をつけた金額は¥103,491であった。消費税をつけない商品の代金はいくらでしたか。消費税率は8%とする。
⑥	時速15kmの乗り物で、61.09kmの道のりを走るのには、何時間何分かかりますか。(計算の最終で分未満切捨て)



*** 答えは下に記載 ***

デジタルとアナログの境目

右の写真、なんだか不思議なモノに見えますね…。

普通に考えれば、電卓があるのだから、横にあるソロバンは何のためにあるんだろう?と感ずますよね。

実はこれ、1979年(昭和54年)にシャープが発売した「ソロカル」という商品なのです。(ソロバンとカルキュレーターの造語?)

少しと調べてみたら、電卓が誕生した当時、計算結果が信じられないために、検算用として横にそろばんが付いた…という説が主流みたいなんです。意味ないじゃん(笑)と思うのですが…。

現在からすると、何と非効率な!という感じが否めませんが、昭和の時代の匂いがして、なんだか面白いですね。

今でもオークションサイトで2千円程度で購入できるようです。



- 応用計算の答えは…
- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| ① ¥219,000 | ② 93 | ③ ¥59,000 |
| ④ ¥33,879 | ⑤ ¥95,825 | ⑥ 4時間4分 |